

クラブ ファンタジーだより

No. 23 1997・4



ごあいさつ



会長 岡田 晴美

春を迎える岡田山には、新しい寄宿舎が完成し、一人部屋の斬新な設備が施され、夢のある学生生活の一端を担うこととなります。着々と地震の爪痕から立ち直って参ります女学院を見て、神の御加護の下、学院の関係者、学生達、同窓生の祈りに支えられていることを痛感しております。

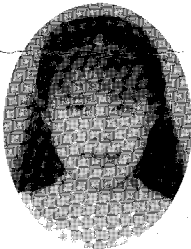
クラブファンタジーは、今春もまた夢と希望に溢れる新卒業生を迎えました。この方達が、これからも女学院で学んだ多くのことを役立てて、より充実した人生を歩んでくださると確信しております。
母校の先生方も世代交替し、卒業生にとつて親しみが少なくなるといふことを

耳にしますが、時々学校を訪ねて下さい。音楽学部が公開講座も受講する事が出来ます。女学院は何時までも卒業生の女学院です。階段のひとつひとつ、柱、廊下、校庭の木々、芝生などが皆の若い学生時代の懐かしい思い出を全部記憶してくれている筈です。誰もいない講堂やソウルチャペルで一人静かに坐ってお祈りするの、昔の思い出に浸るのも素敵です。旧友と学生時代のように語り合うのも素敵です。私達を育ててくれた掛け替えのない母校、神戸女学院なのです。

卒業にあたって
ハンナ・ギューリック・スエヒロ賞
114 稲葉 綾 (P.)

114 福知 織 (Vo.)
三日間に渡る卒業演奏会も終わり、卒業まで残すところ十日余となりました。大学生活の締めくくりとして講堂の舞台に立ちながら、四年前、初めて講堂で歌った入試の時を思い出しました。あの頃はまだ舞台上立つと緊張で足の震えが止まらなかったのを覚えていま

クラブファンタジー賞



114 加納 暁子 (Vn.)

この度は、思いがけなく伝統ある素晴らしいクラブファンタジー賞を頂きました。大変嬉しく思いますと共に感謝致しております。この四年間、神戸女学院で音楽を学ぶ事を許され、オーケストラや室内楽又、様々な講義を通して、素晴らしい先生方や友人達とめぐりあい、沢山の事を学ばせて

す。でもソロ・リサイタルという大きな舞台を経験し、四十分という長丁場を自分の力で乗り切ったという自信は何事にも換え難く、これからの人生にも大きな意義を持つだろうと感じているのは私だけではないでしょう。この様な貴重な機会を与えて下さった大学、多方面からご指導下さった先生方、職員の皆様への感謝の気持ちで一杯です。
卒業後、私達はそれぞれの道を歩むこととなりますが、共通の思い出を持つ友人を大切にしていきたいと思います。

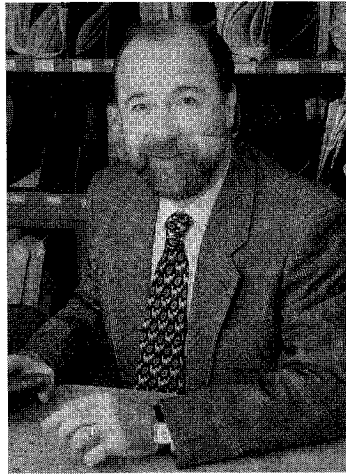
頂きました。本当に皆様方に感謝致しております。四月から、専攻科で学ばせて頂く事になりました。多くの方々のお力添えで今の私が生かされている事に感謝し、学院目標である「愛神愛隣」の精神を常に心の支えとしながら今後も日々努力して参りたいと思います。

My impressions of Kobe College? — very, very positive.

Boris Bekhterev

ボリス・ベクテレフ

1942年、モスクワに生まれる。イタリア国籍。音楽家の家庭に生まれ、5歳で音楽を志しモスクワのGnessin School of Musicで教育を受け、卒業に際して功労賞を授与された。1961年、モスクワ音楽院ピアノ科に入学、J.ミルシュタインに師事。1966年同卒業。1969年モスクワ音楽院にて博士号を取得。1970年、ソビエト・ピアノコンクールで第一位を獲得。以来国内外で盛んな演奏活動を繰り広げ、イタリア移住(1986年)後も続けられている。ソリストとして、またスピヴァコフ(Vn)とのDuoリサイタルをはじめオーケストラとの協演やレコード(Mozart Schubert Brahms Prokofieff etc)などで活躍。教職歴は、1972年より1986年までモスクワ音楽院で、1986年よりボローニャ大学(イタリア)で後進の指導に当たる。1996年4月より神戸女学院大学音楽学部客員教授。



神戸女学院の印象ですか? とても、とてもすばらしい。先生方、職員の皆さんには感謝の言葉もありません。池田先生、田中先生、音川先生にはお忙しい時間を割いて私のリサイタルの前にプログラムを聴いて頂き、有難いアドバイスを頂きました。若本先生は京都を案内して下さいました。特に田中先生には日常の種々の問題でお世話に

なりました。CDを送る「クッション封筒」を教わりました。「家の暖房のリモコンの使い方がわかりません。」「ハーブ奏者のヨーゼフ・モルナー氏の住所を探して下さい。」「私のプログラムを日本語で書いて下さい。」「田中先生は私の果てしない要求からやっとな解放されて、有益で楽しい月日をドイツで過ごされることでしょう。田中先生といえは

ある雨の降る夕方のことです。私はカーテン開閉のボタンだと思って部屋のオレンジ色のボタンを押したので。非常ベルが鳴り響き二十分間も続きました。私は部屋の防音に全然気がつかず、平気でピアノを弾き続けました。そこへ田中先生がにこにこして現われたのです。「ああ田中先生、お元氣ですか?」「ええ有難う、ところでそのボタンを押されましたか?」後ろに制服を着たガードマンが居ましたが警官が来たのかと思いましたが澤内先生には「ご家族やお友達の為にお宅で演奏させて頂けませんか。」と言いました。すると先生は「どうぞ」と云って下さったばかりか大学から十五脚も椅子を借りて来て場所を作って下さったのです! そんなご迷惑をかけるのわかっていたらお願いをするのはありませんでしたのに。皆さん、とんでもないことを持ち出す私にご親切に辛抱強くつき合ってください。本当に有難う。

学生達はよく勉強しました。もつと沢山弾き、もつと早く曲を覚えて欲しかった人達も確かに居ます。でも彼女

達はあんなに忙しいのですから皆とても努力したと思います。私は音楽的にもテクニクの面でも非常に要求度が高いです。私のもとで勉強するのは大変だったと思います。魅力的で愛らしい彼女達と別れるのは淋しいです。

音楽学部の演奏活動はレベルが高いです。すべての教師が演奏活動をする事は大切です。池田、奥村、音川、山上、中野の諸先生方はコンサートで立派な音楽性と高度なピアノの技術を披露されました。そして若本先生と西先生の豊かな声楽、安藤先生の絶妙のフルート、喜多先生の華麗なパーカッションなど。国友先生と野村先生の現代音楽の演奏、それに大野先生の自作の曲の演奏には感銘を受けました。これらの音楽家達が神戸女学院で教えていらつしやるのは素晴らしいことです。

アノの学生に、去年の六月に比べて二月には格段の進歩がありました。私の学生には非常に難かしい曲にかなりの完成度を示した数人が居ました。(残念乍らそれに達しない学生も居ましたが)教師にあって学生に何を演奏させるかは、いつもカケに似た責任の重い仕事です。私は難かしい曲に挑戦させるべきだと思いますが、音楽的、技術的な限界も理解してあげなければなりません。

音楽学部はきちんと組織運営され、あらゆる事項に厳しい規則がありますが、私には厳し過ぎると思われるものもあります。例えば学生が病気で定められた試験の時間に演奏出来ない時、あれ程点数を下げる必要があるのでしょうか。すべての規則は長い経験上の判断によるもので、私は疑問に思えることにも意味があるのだとは思いますが…。

それでも演奏の成果ではなくて、試験時に演奏出来なかつたというだけで低い点数をつけられるのは気の毒に思います。

試験時の先生方の真剣さには感心しました。イタリアやロシアでよく見られるのですが、

しゃべったり、新聞を読んだり、手紙を書いたりしながら聴いている方は一人もありません。

新学期になって新しい学生

追悼

名誉教授

水谷知久先生

教授 澤内 崇

私が女学院にお世話になることになった二十五年前、水谷先生は、作曲主任として精力的に活動されていました。水谷先生といえ、誠実、律儀、紳士の、温好といった言葉がすぐに思い浮かびます。常にネクタイと背広姿で、ベルが鳴ると同時に教室に向かい、終了のベルと同時に授業を終える。そんな几帳面な先生でした。三十五才も年下で、学生気分ぬけき



は、学部長として、音楽学部をまとめる重責を果たされました。私の帰国と先生

に出会い、種々の音楽活動が始まるのが待ち遠しいです。六月にはシューベルトの大事な作品である連弾曲を山上先生と演奏するのを楽しみにし

らぬまま教壇に立った私に對しても、いつも紳士的で、礼儀正しい言葉使い、態度で接して下さいました。又、我々若手の小さな小さな音楽会にも、必ず足を運んで、温かい言葉をかけて下さる優しい先生でもありました。そんな先生と四年間女学院で一緒にさせていただいた後、私は二年間の留学となりましたが、その間、先生

ています。

学外の生活としては日本の美と神秘をもつと発見したいですし、この魅力的な国の文化をよりよく理解出来るよう

の定年とが重なり、以後女学院でお会いすることは無くなったのですが、お互い非常勤で勤めていた大阪音大で、その後も週に一度はお目にかかり、そこでも背すじを伸ばし毅然とした、しかし温かな先生に接することができました。

先生は五十年近い音楽教育のうち二十四年間を女学院で過ごされました。その間、先生の教えを受けた学生は数多く、その影響力は計り知れない程大きなものだと思えます。安らかに、心からのご冥福をお祈りいたします。

90 宮崎やよい

水谷先生は、大正元年十二月九日に和歌山に生を受けられ、昭和十年上野音楽学校(現東京芸術大学)師範

に、日本語を学ぶ時間と余力を見つけたかと思つています。

客員教授として、二年目になられるべくテレフ先生に原稿を

科を御卒業後、仙台第二高女を皮切りに和歌山、明石の師範学校に奉職され、神戸大学教育学部では、助教として教鞭をとられました。大阪音楽大学でも、教科教育法と音楽理論を教えていらつしやいました。昭和二十九年より五十三年まで、神戸女学院でソルフェージュ、作曲法、作曲理論を教えられました。昭和六十三年には、勲四等瑞宝章を叙勲され、その後も非常勤としてお勤めされましたが、平成八年十月五日、腎不全のため八十四才で亡くなられました。私は作曲科在学中、主に作曲法と作曲理論を教えていただきました。非常に緻密な御性格の先生で、和声のミスも直ちに指摘して下さいました。しかし反面、生徒の真の成長を願う広い心をお持ちで、

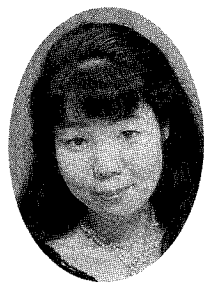
お願いしました。本当にこころよく、英文にてお寄せ頂きました。67・E1山本道子先生が、忙しいなか、私共のために翻訳してくださりました。両先生に心より感謝申し上げます。

宗教音楽に興味を示し始めた若輩の私に、中瀬古先生をご紹介下さいました。御家庭でも良きお父様でいらしたご様子で、レッスンの合間にチラリと御令息、御令嬢のお話を伺う事もありました。県下には先生の残された多くの小学校中学校の校歌がございます。先生の弟子として、作曲を一生の仕事とできなかったのは申し訳ないと思つておりますが、女学院在学中の四年間にお教えたいただいた作曲理論は、今の演奏活動に血肉となつて生きております。どうぞ先生、今はもう、生徒が間違つた和声理論でグロテスクな曲を書くことのない、安らかな天の音色の中でごゆっくりお休み下さい。御霊の永遠の安らぎをお祈り申し上げます。

楽譜から読み取る作曲家のメッセージ

(聞く)

—音楽的修辞法について—



100 岩田朋子

「今、君の弾いた曲は何調かい？」ウイーンのである講習会でレッスンの始めに一曲を通して弾き終った日本人の学生にオーストリア人の先生はこう質問をさいました。不意をつかれたその学生の口から正しい答が出るまで少し時間がかかる。と、先生は「自分の弾いた曲の調性を答えるのにそんなに時間が必要かい？」と苦笑されました。通訳をしていました。日本とヨーロッパの音楽へのアプローチの仕方の違いを見た思いがしました。

私がウイーンの地を初めて踏んだのは一九八七年。その年の秋にウイーン国立音楽大学ピアノ科に入学しました。この学校では、専攻実技の他に多くの必修学科があり、特に修士課程に進むと、その卒業試験は厳しく、ピアノ科では約三分のソロリサイタルプログラム、二曲の協奏曲を課される実技の他、修士論文を提出しなければなりません。論文準備の為、増々多くの学科を取ることにになります。けれども、私にはその学科どれもが興味深く新鮮でした。全てピアノを弾く事に直接結びつきすぐに音の違いとなつて、演奏に表われる事ばかりだったからです。今ここで書こうとしている音楽的修辞法もその一つです。

番号で呼びますが、ヨーロッパでは「f moll. op. 57」と、調性と作品番号で呼び、第何番という呼び方は殆ど使いません。それは他の作曲家も同様で、「シヨパンのg moll.バラード」という様に必ず調性をつけて呼ぶのです。これは、それぞれの調性は固有の性格を持つという伝統的な考え方があり、その調性を作曲家が選んだ意図を大切にしていること、の表れだと私は思います。例えば、ベートーヴェンがEsdur—最も立派で輝かしい調性—で「皇帝」「英雄」告別ソナタ」を作曲したのは決して偶然ではないと思います。

調性だけでなく、音程、音階、音型、和音、リズム、休符の使い方等その各々に言葉の様に意味を持たせるといふ古くからの考え方、規則を音楽的修辞法といえます。限られた紙面で書く事は難しいのですが、最も単純な例を挙げてみますと、



和音について、例えば減七の和音は苦しみ、悲しみを表すとされています。作曲家が痛みを表現したい時にこの和音を使ったと考えられます。また音程ではG↓Aの様な長二度上行は問いかけを表します。勿論多くの例外は存在しますが、これらは単に推測ではなく、バロック期以前から音楽の規則としていわば常識的に守られて来て、調性に関してはロマン派頃まではこの規則がほぼ守られています。作曲を学ぶ人はこの様な事を学校で習う様ですが、私達演奏家も持つべき知識だと思います。先人の減七の和音の様に大切な意味を持つ音の前に時間をとる：ルバートもただ何となくではなく裏付けを持たせることができます。音楽というものは頭で考えるのではなく、感覚で感じるままに弾くのが一番自然です。でもそこにさらに「彼はこういう事が言いたくてこの音を使ったのだろう」と想像力を働かせ、音符の奥の作曲家のメッセージを感じとればもつと説得力のある演奏になるのではないのでしょうか。

私はウイーン国立音大修士課程を卒業した後、ハンガリー国立リスト音楽院で学んでいます。10年間のヨーロッパ生活を通して、この音楽的修辞法の様新しい音楽の視点を知りました。また、この様なヨーロッパにはウイーンの、ハンガリーにはハンガリー音楽の語法がある事が、ウイーンを外から眺めてわかりました。こうして学んだ音楽の語法を日本人の私が自分の言葉として演奏、表現できる様今後さらに研鑽を積んで行きたいと思っています。

クラブファンタジーの夕べ

1996年11月8日(金)

6:30pm開演 於：宝塚ベガ・ホール

第一部

1. ピアノ連弾 渡辺啓子 川崎佳子
小組曲…………ドビュッシー
小舟にて
行列
メヌエット
バレエ

2. ヴァイオリン独奏

- 小林 彩
伴奏 小幡麻紀
ヴァイオリン協奏曲 二長調Op.35
第一楽章 ……チャイコフスキー

3. ピアノ独奏 日置真由美

- メフィスト ワルツ
……………リスト

第二部

1. ピアノ独奏 前田真由美
「ナゼルの夜」より
……………プーランク

- 前奏曲
変奏曲
分別の極み
手の上の心臓
磊落と慎重と
自己満足
不幸の味
老いの警報

フィナーレ

2. ソプラノ独唱 木下千佐子

- 伴奏 小幡麻紀
競艇中のアンゾレータ
……………ロッシーニ
競艇後のアンゾレータ
……………ロッシーニ
歌劇「セビリアの理髪師」より
今の歌声 ……ロッシーニ

3. オルガン独奏 片桐聖子

- 前奏曲とフーガ 変ホ長調
BWV552 ……J.S.バッハ

昨年のクラブファンタジーの夕べを十一月八日(金)宝塚ベガ・ホールで開催致しました。今回は、ピアノ独奏、連弾、声楽、ヴァイオリン、オルガンの演奏で楽しいコンサートになりました。この演奏会をステップに皆様が一層飛躍される事を、期待致しております。今後もそれぞれの分野ですでに活躍していらつしや

る方々もお迎えして、より意欲的に発展させたいと思えます。この音楽会を、一人でも多くの方々に聴いていただきたいと思っておりますので、本年もファンタジーの夕べに、ご協力をお願い致します。



クラブファンタジーでは、演奏会をなさる方の後援をさせていただきます。ここに'96年度の後援状況を

お知らせ致します。今後、演奏会の後援を希望される方は、会長の岡田晴美先生まで、ご連絡下さい。(タイトル・日時・場所等)

1996年度		
1. スロヴァキア・フィルハーモニック・ゾリステン	谷口 敦子 (M106)	1月30日
2. ジョイント・ピアノ・リサイタル	天津めぐみ、井口 直子、田中 規子 (M110)	3月15日
3. 室内楽の愉しみ	山本賀世子 (M104)	4月
4. ブルガリア国立室内オーケストラ	織田 郁子 (M108 Vn.)	6月11日
5. 碓山 典子	ピアノリサイタル (M105)	6月12日
6. フルート・リサイタル	長谷川 博子 (M108)	10月13日
7. 田中 潤子	ソプラノ・リサイタル (M94)	10月20日
8. Verde Luce	入谷 知子 (M91) 中道ゆう子 (M109) 仕館 洋子 (M107) 藤溪 優子 (M108) 小寺加容子 (M110) 中村美生子 (M101)	11月18日
9. IZUM & RIE	デュオリサイタル 萩田 泉 (M94)	11月20日
10. 碓山 典子	ピアノ・リサイタル (M105)	11月21日
11. 安藤 史子	フルート・リサイタル (M102)	11月30日
12. 安藤 史子	フルート・リサイタル	12月5日
13. 岩田 朋子	ピアノ・リサイタル (M100)	12月14日
14. 大川内玲子&南	裕子ピアノ・デュオ (M87) (M86)	1月13日

'96年度
クラブファンタジー後援について

同窓生訪問



世の人々に、やさしい社会をと言われた昨日、音楽を生かしたボランティア活動をなさっている、M

89の堀早苗さんに、今日はお話を伺ってみました。

——活動のきっかけは何だったのでしょうか？

「以前にも経験はありましたが、'91にM102安藤史子さん(刊)と、施設でクリスマスコンサートをさせて頂いた時、お身体の不自由な方々から、動きにくい手での心のこもった拍手を頂き、又一緒に演奏したジングルベルなどでは、足にバチを括りつけてシロホンや太鼓を叩き、動きにくい手でカクスタネットや鈴を鳴らして、体全体で音楽を表現する姿に涙あふれ、音楽の力に新たに感動致しました。」

——それで、その気持ちはどうつながりましたか？

「関西ではまだ音楽療法の専門家が少ないので、月一

回の東京例会に参加し、主に高齢者への音楽療法を選び、勉強を続けています。音楽療法とは、ある種のヒーリング(癒し)なんです。」

「その成果は、いかがでしょうか？」

「芦屋の老人ホーム、地域の老人会の会合、一般病院でのミニコンサートを持つことになりました。また、85関本雅子さんが医長というご縁で、六甲病院緩和ケア病棟音楽ボランティアコーディネーターとして、月一回のミニコンサートを企画し、'95より淡路島の老人施設にも伺っています。'96

12月に「あしや音楽療法研究会」を設立し、現在30名の会員と共に、頑張っています。自宅音楽室でも、月一回高齢者のために楽しく歌う集いを持っています。」

——そういう活動を通して堀さんの音楽に対する考え

方などに変化がありましたか？

「音楽ボランティアをして確かに、私自身の音楽が変わりました。いい演奏をし

ようと必死になって弾くより、暖かい音を、心に届く音楽を目指すようになりました。今後も心を、体を癒しているという目的の音楽療法を活用した演奏活動を続け、二人でも多くの方々に、音楽の中で少しでも和らいだ心安らかな、そして楽しい時をご一緒できればと願っております。」

——堀さんは、主婦であり指導者であり、又伴奏活動もこなされていますが、そのタフさの秘訣を教えてください。

「心が通い合う多くの仲間、共感し合える仲間と家族の理解、支え、応援があるからこそ、前向きに取り組みると思います。」

——最後に、皆様に呼びかけたい事はありますか？

「六甲病院でのミニコンサートをもっと増やしていきたいと思っています。『演奏のプレゼント』にご理解、ご協力を頂けましたら嬉しく思います。」

※より詳しくお知らせになりたい方は、右下記迄ご連絡下さい。

89 堀 早苗

関東支部だより

89 小西純子

（同窓会のファンタジーコースも、堀さんのお話を伺い、六甲病院のミニコンサートに、出演させていただきました。今年も四月十五日に予定されています。）

'96年度関東支部総会は、五月三十日、日暮里サニーホールにて参加者約五十名で開催されました。例年通り全員の讚美歌斉唱で始まり、安見支部長の挨拶、会計報告等がなされました。第二部は同窓生によるコンサートが行われました。若い方々の初々しい演奏から経験豊かな先輩方の熱演までバラエティーに富んだプログラムに、大好評を頂きました。又、九月十四日に開催されました釜淵祐子姉

チャリティーコンサートでは、関東支部も、お手伝いさせて頂きました。'97年度は、東京芸大大学院作曲科卒業後、各方面に御活躍の新進音楽家山田武彦氏による講演会を予定しております。

日時 5月29日(木)
午後1時30分
場所 日暮里サニーホール
係 89 小西純子

89 下村美砂

PROGRAM		May 30, 1996	
1 Telemann	無伴奏3つのヴァイオリンの為のリナタからラルゴとアレグロ	5 Chopin	ワルツop.34の3 へ長調 第1番
第1 田中宣子 (96)		第2 大林雅代 (96)	忘れられたワルツ
第2 大林雅代 (96)		Godowsky	古きウィーン
		Grünfeldt	ウィーンの夜
		上柳明子 (86)	
2 Ravel	「クープランの墓」より 1)プレリュード 3)フォルラーヌ 4)ゴドン 5)ヌエット 6)トッカータ	6 Vivaldi	2つのヴァイオリンの為の協奏曲 第8番 1)短調 1. アレグロ 2. ラレゲット 3. アレグロ
米沢協子 (109)		第1 田中宣子 (96)	
		第2 大林雅代 (96)	
3 Brahms	ソナタop.5 第1楽章 浅香悠紀子 (82)	伴奏 大山文子 (96)	
4 小林秀雄 本居長世 山田耕伴 平井康三郎 Meyerbeer	すてきな春に 白月 からたちの花 あの子この子 歌劇「ディノラー」より影の歌	7 Shostakovich	2台のピアノの為の コンチェルト op.94
ソプラノ 中嶋 操 (100)		第1 浅香悠紀子 (82)	
伴奏 米沢協子 (109)		第2 久野奈奈 (94)	

'97年度音楽学部教職員

音楽学部長 若本明志教授

学 科 長 前中明子教授

学生主事 齊藤言子助教授

橋 茂助教授

池田洋子(P)

猪本 隆(Com)

前中明子(P)

奥村智美(P)

音川絃一(P)

澤内 崇(Com)

山上明美(P)

若本明志(Vo)

石黒 晶(Com)

中村 健(Cho/Orch)

西 明美(Vo)

齊藤言子(Vo)

橘 茂(Vo)

田中修二(P)

辻井 淳(Vn)

西田直孝(Fl)

ボリスベクテレンP

林達也(特殊研究)

伊藤由子(伊語)

マイオロベルト伊語

三浦由美子(Hrp)

河野有宏

坂井紀子

間苧谷明子

立川暢巳

飯田正紀

小柳芳子

野平一郎

菅沼 潤

山崎紀子

オルガン置退職 西山(木原)聡子

おめでとうございます

音川絃一教授

一九九六年度

大阪文化祭賞 受賞

(一九九六年十月八

日のピアノリサイタル

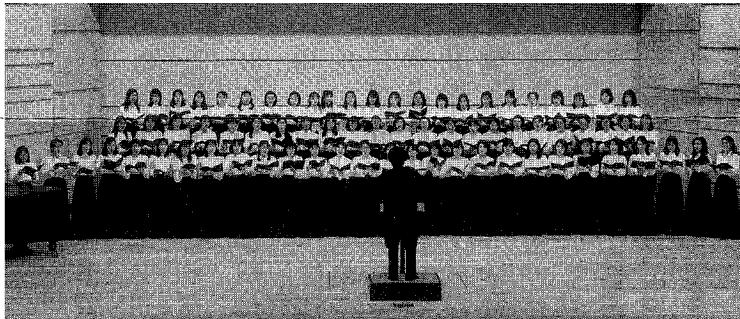
の成果)

音楽学部定期演奏会

プログラム

- 高 田 三 郎：平和の祈り
- 尾 形 敏 幸：光の誕生より「光の生誕、光の記憶」
- トンプソン：アレルヤ
- ニシュテット：ホザンナ
- モーツァルト：ピアノ協奏曲第23番イ長調K. 488
- ラフマニノフ：ピアノ協奏曲第2番ハ短調作品18
- シベリウス：交響曲第2番ニ長調作品43 他

定期演奏会は十二月三日
大阪厚生年金会館中ホール
において左上記のプログラ
ムで行われた。



ピアノ 山内信子

指揮 佐納美保

中村 健

辻井 淳

本山秀毅

合唱・オーケストラ 音楽学部学生

